

第2回 仙台I ソンタクラブ 東北大学大学院  
女子学生のための国際学会発表渡航支援事業 報告書

平成30年 9月21日 記入

所属部局名：医工学研究科  
学 年：博士前期課程2年  
氏 名：柴田 美咲

1. 渡航先  
オランダ・マーストリヒト
2. 参加国際学会等の名称  
29<sup>th</sup> European Conference on Biomaterials (ESB2018)
3. 開催期間  
平成30年9月9～13日（5日間）
4. 旅行期間  
平成30年9月7～15日（9日間）
5. 発表演題  
Synthesis of Iron Nitride for Hyperthermia of Cancer  
（和訳：がん温熱治療への応用を目指した窒化鉄の合成）
6. 参加した国際学会等の状況並びに感想

本学会は、医療現場で用いる材料を幅広く扱ったヨーロッパ最大級の学会です。今回は、ヨーロッパを中心とした44ヶ国から900人以上もの参加者が集まりました。そのうち半数は学生が占めており、この分野の研究が活発であることがうかがえます。

私はがんの磁気温熱治療に用いる材料の研究を行っており、この分野では研究されてこなかった新しい材料の有用性に関して、ポスターセッションにて発表しました。現段階では基礎研究ではありますが、当日は様々な研究者と応用の可能性について議論することができました。発表時間は短かったものの、非常に有意義な時間でした。

また、本学会に参加していて、日本とヨーロッパでの学会の雰囲気の違いを実感しました。日本ではいまだに女性の研究者が少なく、それゆえにしばしば女性であるというだけで注目されてしまうことがあ

ります。それに対して、本学会では女性研究者が半数ほどを占めており、分野によってはむしろ女性のほうが多いこともありました。そこでは特に性別を意識することなどなく、性別にかかわらず誰もが研究者という同じ立場にいました。日本の学术界が男女共同参画という点でヨーロッパに追いつくまでにはまだ時間を要するように思えますが、そうなってほしい、そのために何か働きかけたい、という気持ちが強くなりました。

5 日間の学会と懇親会の中で、同じく博士課程で学ぶ学生と交流する機会もありました。たわいもない話やそれぞれの研究の話で盛り上がりました。全く違う分野でありながらも興味をもってくれて嬉しかったのと同時に、自分の研究を違う分野の人に上手く伝えることができず、もどかしさを覚えることもありました。彼らといつか再会できたらという気持ちも、あのもどかしさも、研究を続けていくモチベーションです。

本学会を通して、自分の研究を見つめ直すことやこれからの研究のアイデアを得ること、現地の学术界の雰囲気や世界で活躍する研究者の実際を見ること、そして様々な研究者と交流することができました。ここで得た知見を役立てて、前向きに、今後も研究に励んでいきたいと思います。

## 7. 本事業に対する要望等

この度は、貴支援事業のおかげで素晴らしい経験を得ることができました。大変感謝しております。今後もこのような支援事業を続けて下さるよう、お願いいたします。

※ この報告書は、本事業の出資団体である「仙台 I ソンタクラブ」への事業成果報告として提出します。

※ この報告書は、本学男女共同参画委員会ホームページに掲載します。